

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週 火曜日 午後 12:30～1:30

例会場：鶴岡市 錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

例会会報

第 2331 回

平成 18 年 9 月 19 日 (火) 晴 (本年度 第 12 回)

会長報告

丸山 隆志

9月16日、会員増強退会防止セミナーが地区役員及び各クラブ関係者の出席者合わせて124名で開催されました。関原ガバナーの挨拶、後藤会員増強退会防止委員長の挨拶の中で、2800地区の会員数が2,000人に戻ったという報告がありました。高橋パストガバナーの基調講演では、退会防止はクラブ例会の充実にあるということで大変責任を感じました。また30代・40代の会員増強が望まれるということでした。

最後に酒田RCによる会員増強退会防止の寸劇では、日頃のRC活動の様子を再現し、例会に慣れていない新入会員に対する心配りをしようということで、ユニークで大変好評でした。

今月は、新世代のための月間です。鶴岡RCはインター・ローターアクトクラブ両方のスポンサーになっております。両クラブ共に積極的に活動しておりますが、ローターアクトクラブも会員減少に悩んでおります。会員の皆様の職場に18歳から30歳の中で適任者がおりましたら、是非推薦をお願いします。

本日は(株)荘内日報社代表取締役社長 橋本政之氏のゲストスピーチです。よろしくお願いします。

橋本政之 氏の主な経歴

- 1975 (昭50) 年 鶴岡南高校卒
- 1979 (昭54) 年 日本大学法学部卒
荘内日報社入社
- 1990 (平 2) 年 酒田支社次長 (酒田市政等担当)
- 2000 (平12) 年 取締役新任 (編集局長委嘱)
- 2004 (平16) 年 代表取締役社長 (第6代) 就任

新聞報道のあれこれ

ゲストスピーチ

株荘内日報社
代表取締役社長 橋本政之氏



本日はお招き頂きましてありがとうございます。また皆様には、日頃荘内日報をご愛読、ご利用いただき誠にありがとうございます。おかげさまで、昨年60周年を迎えることができました。私どもの歴史を少し紹介しながら最近の話題を紹介したいと思います。

荘内日報は、戦後昭和21年1月14日、「荘内自由新聞」の題号でタブロイド判を週間発行しスタートしました。翌22年3月から日刊発行、24年10月1日からは現在の「荘内日報」に題字を変え、ブランケット判で発行して参りました。そして昨年60周年を迎え、6月1日付の発行号数に2万号と刻み、皆様にお届けすることができました。

荘内日報の創刊は、戦時中の新聞統制、要は紙の統制で一県一紙とされ山形県内は山形新聞だけとなっていたのですが、郷土史を失っていた庄内地域の皆様から大きな喜びをもって迎えられたと聞いております。新聞用紙はおろかあらゆる物資不足の時代でも創刊を主導した先人たちの苦勞は計り知れないものがあります。

現在の題字は書道王国・庄内を実現された松平穆堂翁の筆によるもので、昭和29年から半世紀にわたり引き継いでおります。「庄内はひとつ」の創刊理念を継承し、ひたすら庄内地域の人々の幸せを追求する報道と言論活動を繰り広げて参りました。その歴史の大きな節目であった昨年は、庄内の大きな話題となっていた市町村合併が一応の集約を見ることが出来ました。内陸の行政関係者がよく、庄内の合併をうらやましいとおっしゃるのを、私だけでなくいろんな方々がお聞きになっているようです。

羽黒、藤島、櫛引、朝日、温海が合併して人口14万3千となった新鶴岡市。八幡、松山、平田と合併して人口11万8千となった新酒田市。また

余目と立川の合併で人口2万5千となった庄内町。当面は独自の路線という遊佐町。そして鶴岡市は三川町も合併すると15万人となります。「庄内」が新たな歴史を刻む一応の準備が整ったこととなりますが、その背景に地域の人口減少の問題があります。それにどう対応するか。大学・大学院などの開設で教育、研究の場を設け、若い人口を呼び寄せる。中でも慶応大学の先端生命科学研究所は世界的な研究を進め、内外から大きな期待を集めていますが、地元としては何といっても、新産業が生まれ、就労の場ができることを期待しているわけです。

一方、日本海沿岸東北自動車道の早期実現、鉄道の高速度化、庄内空港の運行の拡充、酒田港の機能充実などは庄内ブランドを全国、世界に広げるために不可欠です。

「庄内ブランド」でいう「庄内」というくくり方は、徳川300年の歴史の中で培われ、往時の風土は今も脈々と流れています。藤沢周平さんは庄内日報のインタビューの際、自らの時代小説に登場する架空の藩「海坂藩」について、「そっくりそのままではないが、城下町を流れる川を挟み、西側にお城と武家屋敷があり、東に町人町が展開する構図はまさに鶴岡をイメージしたもの」と語っておられました。藤沢さんの作品群で、山田洋次監督や、黒土三男監督により映画化されたものはどれも好評であり、国内外で評価され、多くのファンから支持を集めているのは、藤沢作品が描く世界に過去、現在、未来を貫く普遍性があるからだと思います。それによって「庄内」というブランドのイメージが形づくられるものだと思います。

庄内観光の素材は「城下町の鶴岡市」と「港町の酒田市」。酒田市は、酒田港で内外の船が行き来しているから、市民も観光客も港町を意識することができますが、鶴岡市はどうでしょう。旧町名の復活というのはどうでしょう。2年前徳川18代当主を迎えた講演会をお手伝いした時に、致道館という藩校が今に残り、子供の庄内論語の素読会なども開かれているのに、「致道館」という藩校名を使わないのはもったいないと言われました。要するに、地域コミュニティを高めるという効果を期待しているのです。

そこで、次のようなことを考えております。

「株式会社北前船庄内」設立

目的・観光事業団体との連絡提携による広域観光事業の推進

・観光地（出羽国）の紹介宣伝及び国内外からの観光客の誘致

・観光誘客のための広報宣伝及びイベント開催
北前船の航路として繁栄した庄内～秋田間の約200キロの沿岸地域を「コリドール（回廊）」に見立て、ひとつの経済・文化圏として捉え、そこに暮らす約80万の人々が、かつて出羽国として繁栄した地域を再び活気のある経済圏にする道を探る…というフォーラムがきっかけとなり、出羽国経済圏の復活への糸口が垣間見え、地域を挙げた活動が活性化につながるものと確信しました。地域と、人々の熱意、そして活性化にける真剣さを共有できれば、新産業なども興せるものと信じ、この会社の設立を決意しました。当面は庄内と秋田の両地域でそれぞれ立ち上げますが、設立後は両地域の連携をさらに強めていく考えです。

設立に当たり多くの皆様からご賛同をいただき、両地域の再生のためにご支援をいただきたく、設立発起人をお引き受けいただきますよう切にお願い申し上げます。

あいさつ

交換留学生 ノラ・トーマス

はじめまして。私の名前はノラ・トーマスです。オレゴン州から来ました。18歳です。いま、羽黒高校で勉強しています。サッカークラブも入っています。どうぞよろしくお願いします。

委員会報告

出席委員会

委員長 迎田 健

本日の出席		前々回の出席	
会員数	47人	出席率	75.00%
出席数	29人	修正出席数	34人
出席率	65.91%	確定出席率	77.27%

●メイクアップされた方

阿部純次君 藤川享胤君・秦 幸助君
樋渡美智子君 本間昭吉君 丸山隆志君
嶺岸禮三君 真島吉也君 越智茂昭君
佐藤孝子君

●ビジター 後藤 正君（鶴岡南 RC）

●ゲスト 橋本政之氏（㈱庄内日報社代表取締役社長） ノラ トーマス（国際青少年交換学生）

スマイル

石田 雄君 樋渡さん、白鰻社展おめでとう！

富田喜美子君 交換学生ノラちゃんを歓迎します。

丸山隆志君 橋本さん、スピーチありがとう。